



〔 編集後記 〕

今年度より編集委員を拝命致しました，薬理学の安西でございます。

早くも2021年も残すところ1か月を切りました。2020年から本格的に我が国だけでなく世界を襲った新型コロナウイルス感染症は今もお感染の収束を見てはおりません。

我が国では緊急事態宣言が解除になった後，これまでのところ「第6波」と言える感染拡大にまで至る状況は訪れてはおりませんが，新しい変異種の感染者が見つかり年末年始，そして翌年にむけ，まだまだ余談を許さない状況が続いております。

本号では，綴じ込みでまずは例年通り千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募がなされております。先端医科学及び医療の進歩に顕著な貢献が期待される研究者の方々，そして将来の発展を期待し得る学生や若手研究者の方々のいわば登竜門として，位置付けられ，受賞後に大きく羽ばたかれた先生方を輩出しております。奮ってのご応募をお待ちしております。

続いての綴じ込みは第15回ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせです。本年4月からの新医学部棟への移転，学長および医学研究院長・医学部長の交代など，千葉大学医学部として新たなスタートを飾る時期に当たり，今回から新たな世話人による運営体制へと移行することとなりましたが，学生さん主体の運営である基本方針は変わらず実施されます。今回の特別講演は久しぶりに外部からの演者として，大阪大学第17代総長を務められ，現在は量子科学技術研究開発機構理事長の平野俊夫先生にお越し頂くこととなりました。学生さんだけでなく，ご関心をお持ちの先生方にも遠慮なくご参加を頂きますれば幸いです。

千葉医学最初の論文は千葉県がんセンター婦人科，頭頸科，臨床病理部からの症例報告で，婦人科の後藤先生らによる子宮頸癌の多発リンパ節転移により両側反回神経麻痺を来し，気管切開術を行ったという稀な1例の報告がなされました。甲状腺癌や食道癌，肺癌による反回神経麻痺に加え，婦人科癌においても，縦隔や鎖骨上窩リンパ

節への転移があり嗄声を来した場合の反回神経麻痺を鑑別診断に入れる必要性が喚起された点で重要と思われまます。

続いて，予防医学センターの櫻井先生による，Syndemicという視点，と題する提言です。Syndemicとは「synergy」と「epidemic」の2つの語から作られ，複数の状況が重なり合い，相互に作用することで健康アウトカムを悪化させる状態を示す言葉のようであります。現在も我々がおかれているコロナ禍において，このsyndemicな視点を通じて「健康な社会」を目指す契機とする重要性，さらに同氏の所属する予防医学センターのsyndemic視点での試みが記されています。

3つ目は，おなじみの杉田克生先生らによる話題：医学用語語源対話 VIIであります。時空を超えて医療者が伝えたい「概念」を書き残すために創られた医学用語。今回は神経解剖学の中で従来取り上げてこれなかった用語を中心に，語源学的観点から神経学への理解を深める，ということで，杉田先生と池田先生の対話形式で展開されております。

学会には2021年2月13日にWeb開催で行われた令和2年度呼吸器病態外科学教室例会記録が掲載されています。一般演題29題とコロナ禍のオンライン開催にも関わらず，熱心な研究活動が行われていることが垣間見られ，教室の勢いを感じる内容であります。

Chiba Medical Journalには，千葉医学会賞受賞論文として，千葉大学大学院医学研究院眼科学の馬場隆之先生によるQuest for treating myopic tractional maculopathyと題する総説の投稿を頂きました。馬場先生のご専門である近視性黄斑症の病理からこれまでから現在に至る外科的治療法の流れを追うことのできる秀逸な内容と存じます。

今号も多彩な内容となっておりますが，今後も千葉医学，Chiba Medical Journal (CMJ) への原著論文，短報，症例，総説，その他のご投稿を心よりお待ちしております。

(編集委員 安西尚彦)